

平成23年度 館山小学校の研究

1. 研究主題

進んで学習する児童の育成をめざして
ー子どもに学習力を！ 教師に授業力を！「館小モデル」での取り組みー

2. 主題設定の理由

(1) 社会の情勢から

21世紀は、社会のあらゆる領域で、新しい知識・情報・技術が活動の基盤として飛躍的に重要性を増す知識基盤社会の時代であると言われている。一方では、少子・高齢化、核家族化が進み、地域社会においては交流の希薄化、家庭におけるしつけや教育力の低下が指摘されている。このような社会において、自己責任を果たし、他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な知識や技能の習得やそれらを活用して課題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である。

新学習指導要領改訂のポイントの一つに、「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の育成」が盛り込まれている。これからの社会を生き抜く子どもたちには、ただ知識や技能を習得するだけでなく、それらを活用して課題を見出し、解決するための思考力、判断力、表現力を身につける必要がある。こうした力をすべての子どもに身につけさせるには、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、学習習慣を確立させることが欠かせない。

このように社会的情勢の変化と学習指導要領改正の視点から、進んで学習する態度と能力を育むことが重要な課題となってくる。

(2) 学校教育目標から

館山小学校教育目標

- やればできる…夢を持って進んで学習する子
- やさしくなれる…思いやりのある子
- やすまずできる…たくましく活力に満ちた子

(3) これまでの研究の経緯から

本校では、平成14年度から3年間、学力向上フロンティアスクールの指定を受け、算数科と国語科を中心に基礎学力の向上に取り組み、平成16年度には公開研究会を実施した。さらに、平成17年度からは、「児童の学習力の向上」と「教師の授業力の向上」をめざし、国語科、算数科、特別支援教育を中心に「授業力向上実践研究会」として、年2回の公開研究会を実施し、本年で7年目を迎える。この一貫して継続した取り組みが、進んで学習する児童の育成に効果的であると考えている。

(4) 実態調査から

昨年度より、館小モデルによる取り組みで研究主題にどこまで迫ることができたかを検証するため、アンケートによる児童の実態調査を行っている。昨年度5月と1月に実施した調査の結果から、勉強や授業が楽しいと感じる児童の増加(3.27→3.36)や、友だちの考えを、自分や他の友だちの考えと比べたり関係づけたりして聞ける(3.02→3.15)、話し合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりして、より確かな考えを持てる(2.92→3.10)児童が増えていることがわかった。(アンケートは、そう思う→4、どちらかといえばそう思う→3、どちらかといえばそう思わない→2、そう思わない→1、の4選択肢で全校児童に実施。前述の数値はその平均)

我々の考える「館小モデルでの取り組み」が進んで学習する児童を育てるために有機的に機能していることが確認できた。一方で、「進んで学習する児童の育成」は、教育における永遠のテーマであるともいえる。実態調査をもとに成果と課題を明らかにし、それらの課題を解決して、進んで学習することができる児童の育成をめざした取り組みを続けていく必要があると考えている。

3. 研究目標

進んで学習する児童を育成するために、**教師の授業力を向上させ、児童の学習力を向上させる実践を行い、「館小モデル」の維持・改善を図る。**

(1) 進んで学習する児童について

本校では、「進んで学習する児童」と、「児童の学習力」を以下のように捉えている。

「進んで学習する児童」とは、

- ・学校が好き、たのしい。
- ・勉強が好き、たのしい。
- ・授業が好き、たのしい。
- ・課題を解決することが好き、たのしい。
- ・勉強ができるようになりたい、わかるようになりたい。

という意欲を持ち、

- ・自分の課題を明確につかめる。
- ・既習事項を生かして、自分なりの方法で追究し、自分の考えを持てる。
- ・自分の考えを、根拠を明らかにして表現できる。
- ・友だちの考えを、自分や他の友だちの考えと比べたり関係づけたりして聞ける。
- ・話し合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりして、より確かな考えを持てる。
- ・身につけた学習内容を、生活の中で活用できる。

という学習力を備えた児童。

(2) 教師の授業力について

- ・児童に「学習力」をつけ、「進んで学習する児童」にするために必要な能力・技能。

(3) 「館小モデル」について

「館小モデル」とは、「児童の学習力」と「教師の授業力」を向上させるための手だて（コツ）を、実践を通して見出し、蓄積・整理し、それらを活用・実践する、本校の教育活動のスタイルをいう。

これまでの「館小モデル」での取り組みは、次の5点に整理することができる。

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ①授業実践 | (授業研究 教材研究 公開研究会 公開学習会) |
| ②学習へ向かう姿勢づくり | (児童の発達段階に応じたケア) |
| ③学習支援体制作り | (学力ケアプロジェクト 甲子園プロジェクト 他) |
| ④学力形成を支える学習環境 | (サテライト経営 他) |
| ⑤実態調査 | (事前、事後アンケート 分析) |

我々が考える教育活動のスタイルである「館小モデル」の維持・改善を図ることで、教師の授業力、児童の学習力を向上させ、めざす子ども像である「進んで学習する児童」を育成することができる。と考える。

4. 研究内容

(1) 教師の授業力と児童の学習力の向上を図るために、これまでの研究を基盤にし、さらに工夫・改善した日常的授業実践を行い、その成果と課題を明確にする。

①一人一実践の実施

②公開研究会、年間2回の実施

平成23年度 第1回(通算13回)公開 10月28日(金)

第2回(通算14回)公開 12月9日(金)

(2) 児童一人一人の学習の成立のために「学習へ向かう姿勢づくり」を行い、その成果と課題を明確にする。(日常の学習全般により学習に対する意欲化等を図る。)

(3) 「基礎的・基本的な知識・技能」の確実な習得と活用のために、「学習支援体制」の構築と実践を行い、その成果と課題を明確にする。

(学力ケアプロジェクトや学習競技プロジェクト等に取り組むことによって、重要学習内容を着実に身につけさせる。)

(4) 児童の学力の形成を支えるための「学習環境」の開発・維持・改善を図り、その成果と課題を明確にする。

(サテライト経営等による環境整備を進め、学習に自然に親しめる環境作りを進める。)

(5) 館小モデルによる取り組みで、研究主題にどこまで迫ることができたか、実態調査を行い、その成果と課題を明確にする。

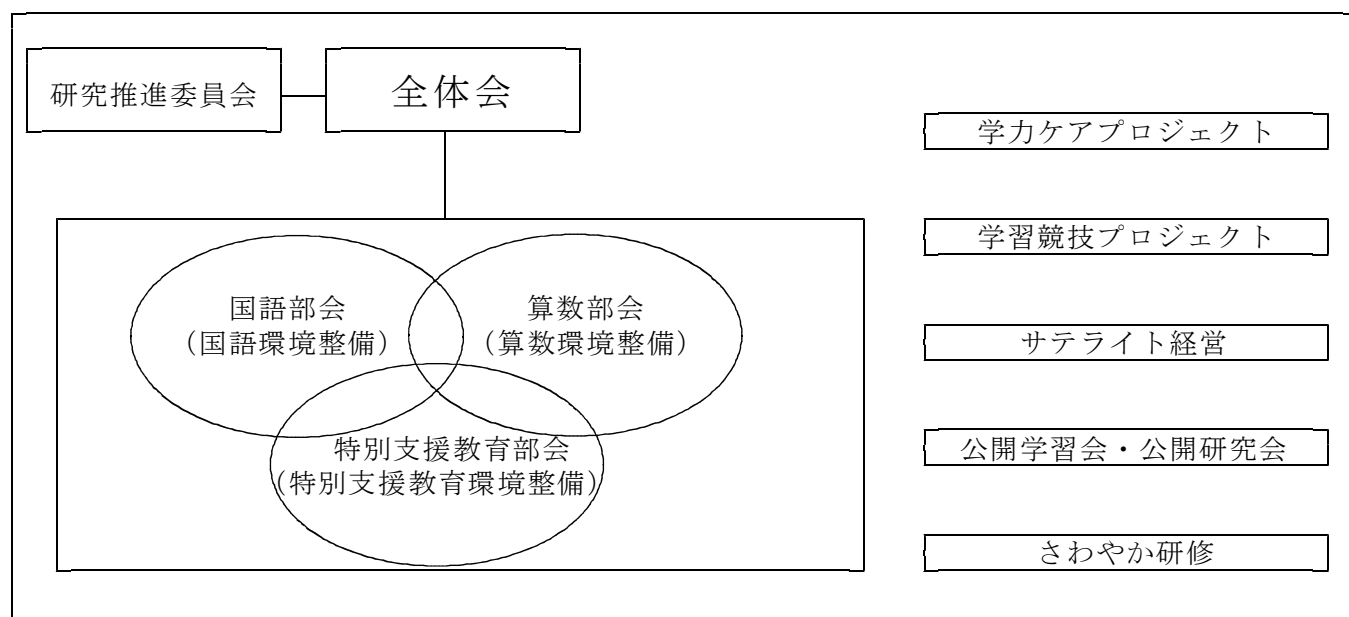
5. 研究手法

本校では、大まかな目標や枠組みは規定するものの仮説や検証方法など絞らない「臨床的手法」で研究を進める。(「臨床的実践研究」)

この方法の利点として、次の3点が挙げられる。

- 個々の教師のアイデアや自由な発想や工夫が生かされ、形になる。
- 個々の教師の小さな実践が蓄積される。
- 多面的な考えによる取り組みができる。
(いろいろな方向から目的達成を図ることができる。)

6. 研究組織



7. 研究推進体制について

(1) 研究部会

部会	1年	2年	3年	4年	5年	6年	少人数
【国語部会】	渡邊 武田	石井	◎佐藤香 波佐間	矢野	○佐藤由 飯田	網代	
【算数部会】	小宮	○赤池 亀田	羽鳥	出山 黒政	庄司健	◎森 庄司章	田中 吉田 小澤 菊間

本校では、各学年の職員を、必ず国語、算数両部会に振り分けて配置している。また、年2回の公開研究会では、同一学年の実践は、なるべくどちらか一教科になるようにしている。これは、授業を実践する際に、授業者や教科部会内だけでなく、学年職員も一緒に教材研究や指導案作り、授業実践を協力して行うためである。こうすることで、自分の所属する教科の研究だけでなく、もう一方の教科の研究

にも全職員が関わることができる。

【特別支援教育部会】

◎高木寿 和泉澤 関口 吉野 相良

【学習環境を推進するチーム】

○田中 吉田 小澤

【公開研究会・公開学習会事務局】 ○菊間 小澤 吉田

8. 研修計画

月	日	曜日	形態	内容
4	21	木	全体会	今年度の研究の方向性の共通理解、研究の組織、年間の見直し
4	28	木	個人研修	教科構想の検討
5	12	木	教科部会	教科構想の検討 実態調査（事前）
5	26	木	全体会	教科構想の共通理解
6	2	木	教科部会	要請訪問に向けての教材研究、指導案検討
6	9	木	教科部会	要請訪問に向けての教材研究、指導案検討
6	16	木	教科部会	要請訪問に向けての教材研究、指導案検討
6	23	木	計画訪問	
6	30	木	公開学習会	要請訪問
7	7	木	公開学習会	要請訪問
7	13	水	公開学習会	細水先生
7	14	木	公開学習会	二瓶先生
7月下旬			教科部会	教科構想の見直し、公開へ向けての共通理解
8月中			教科部会	公開へ向けての教材研究、指導案検討、環境整備
9	1	木	全体会	公開へ向けての計画
9	8	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討①
9	15	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討②
9	22	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討③
9	29	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討④
10	6	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討⑤
10	13	木	全体会	館山小の研究・指導案印刷丁合完了 製本へ
10	21	木	全体会	指導案発送・全体会リハーサル
10	27	木	全体会	会場準備
10	28	金	公開研究会	第13回公開研究会
11	10	木	教科部会	13回公開の反省、公開へ向けての指導案検討⑥
11	17	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討⑦
11	24	木	教科部会	公開へ向けての指導案検討⑧
12	1	木	教科部会	指導案発送・分科会リハーサル
12	8	木	全体会	会場準備
12	9	金	公開研究会	第14回公開研究会
12	15	木	教科部会	公開研究会の反省
1	12	木	教科部会	今年度のまとめと次年度の方向性検討
1	19	木	全体会	今年度のまとめと次年度の方向性検討
1	26	木		フリープラン
2	2	木		フリープラン
2	9	木		フリープラン
2	16	木		フリープラン
3	1	木		フリープラン
3	8	木	全体会	研究のまとめ、次年度の予定